

いわた 文化財だより 第194号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和3年5月6日発行

目次

- 幕末から近代へ P1~2
- 文化財課刊行物紹介 P3
- 遺跡の範囲内で工事をおこなう際には
届け出が必要です! P4
- 『漆喰(しっくい)の話』安藤寛 P4

幕末から近代へ

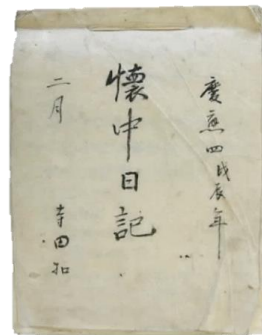
～幕末から明治にかけての磐田、赤松則良と渋沢栄一～

現在、NHK大河ドラマ「青天を衝け」では、幕末から明治にかけての渋沢栄一の波乱に満ちた生涯を描いています。今月の特集は、ドラマと同時代の磐田、磐田と縁のある赤松則良と主人公である渋沢栄一の関係をご紹介します。

幕末から明治にかけての磐田

幕末の磐田 幕末、アメリカ合衆国の使節ペリーが来航したことをきっかけに開国した日本は、諸外国と不平等な条約を結んでいきます。そのような中、薩摩藩、長州藩は外国との戦いを経験し、外国の力の強さを実感したことで、幕府を倒し、新しい世の中をつくる動きが高まります。

磐田では見付の神官・大久保春野が先頭に立ち、「遠州報国隊」を結成しました。これは、国学者である賀茂真淵かものまぶちに始まる「遠州国学」に端を發し、『懷中日記』(慶応4年)天皇を中心とした本来の日本の姿に戻そうとの考え方から、討幕(東征)軍(寺田篤夫氏所蔵)に参戦したものです。そのような中、福田の大庄屋であった寺田彦太郎は、「懷中日記」の中で、慶応4年(1868)2月、東征軍が東海道を通過する際、食糧や警備、馬の用立てなどの命令が下ったことを記しています。東海道を通るおびたしい人の軍列と臨時の負担の中で、庶民は時代の変化を感じとっていたのではないのでしょうか。



倒幕後の磐田

江戸幕府が倒れると、将軍だった徳川家が静岡藩に移されたことから、徳川家に仕えていた武士(幕臣)も静岡県に多く移り住みました。しかし石高が減り、藩が藩士を養えず、その多くは自給自足の生活を強いられ、農業や商業に携わることになります。こうした人々と地元住民との交流によって、発展した事業や産業がありました。

中でも旧幕臣・赤松則良らは、天竜川の氾濫はんらんで家を失った農民を雇い茶園事業を始めました。赤松は茶の植付けから生育までを指導し、生育後の管理方法は狭山(埼玉県)から茶教師を招いています。この間、見付の神官であった大久保忠利も製茶に注目し、茶業組合を設立しました。こうして、磐田で生産されたお茶は福田港から横浜港へ輸送され、海外へ輸出する道を切り開きました。

磐田・豊田・山名郡長を歴任した青山宙平ちゅうへいは自身の土地を提供し、中泉駅(後の「磐田駅」)を誘致し、このように明治維新の混乱の中で、さまざまな有力者たちが磐田の近代化に努力しました。



赤松則良 (1841-1920)
江戸生まれ。日本近代建艦技術の先駆者。幕府に仕え、明治維新後は、佐世保・横須賀鎮守府司令長官を歴任。後年、見付に居を構えた。現在、旧屋敷の門・塀が県指定文化財になっている。

赤松則良と渋沢栄一

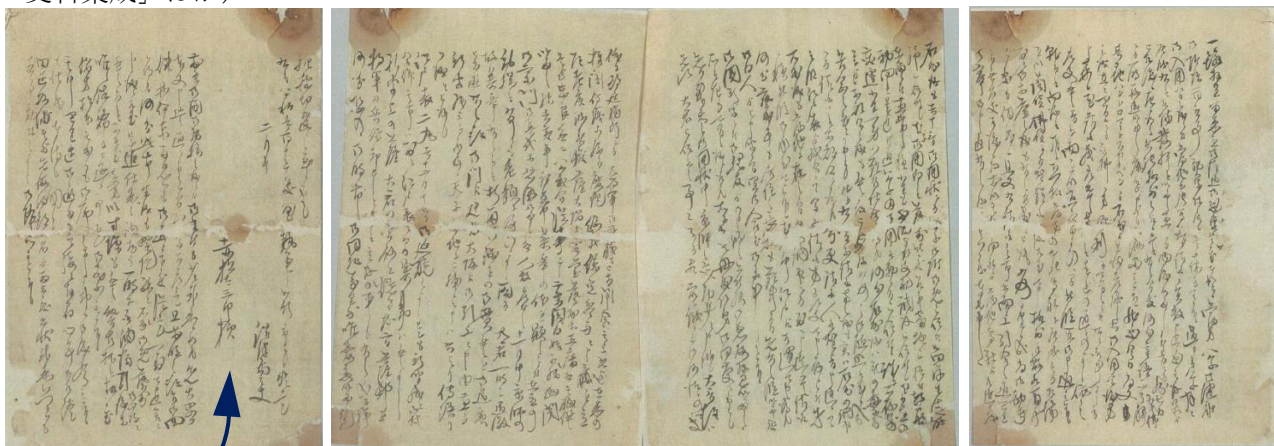
渋沢栄一
(1840-1931)
埼玉県の豪農出身。幕府に仕え、明治維新後は民部省（のちに大蔵省と合併）、大蔵省（現財務省）に出仕、退官後は実業界で活躍した。



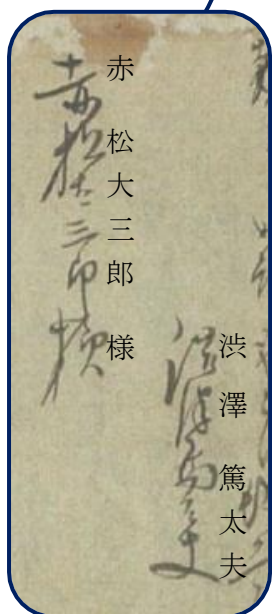
今年の大河ドラマの主人公である渋沢栄一は天保11年（1840）生まれ、赤松則良はその一つ年下です。慶応3年（1867）、日本国として初めて出展するパリ万国博覧会に、将軍・徳川慶喜の名代として参加する昭武（慶喜の弟）に随行した渋沢は、オランダに留学していた赤松と出会います。

ここで、赤松は渋沢から一行の滞在費金策の依頼を受け、5万ドル（現在の価値で5億円相当）もの大金を準備しています。その際の赤松に宛てた渋沢直筆の書簡（下の画像）が残っています。（国立国会図書館蔵／赤松家寄贈）

二人の関係は、新政府の民部省で再会した後も続き、渋沢は明治20年に赤松が旧幕臣らと立ち上げた東京製鋼会社（現在のワイヤーロープ最大手「東京製鋼株式会社」）の創立時の株主、明治31年には取締役会長となっています。（参考：「続幕末和蘭留学関係史料集成」ほか）



渋沢が赤松に宛てた書簡（複写）（大三郎は則良の別名、篤太夫は栄一の別名）滞在費に関する記述のほか、渋沢が新聞や友人から知った日本の情勢についても書かれています。



公開中

渋沢栄一と赤松則良

幕末・パリ万国博覧会で出会った二人
～渋沢栄一が赤松則良に宛てた手紙～

旧赤松家記念館では、渋沢が赤松に宛てた書簡（複製）を2点展示します。上記で紹介した書簡やそれぞれの書簡の内容をわかりやすく訳した解説文も展示しています。ぜひ、ご覧ください。（原文は国立国会図書館HPでWEB公開しています。）

期間：令和3年5月1日（土）～5月30日（日）9:00～16:30

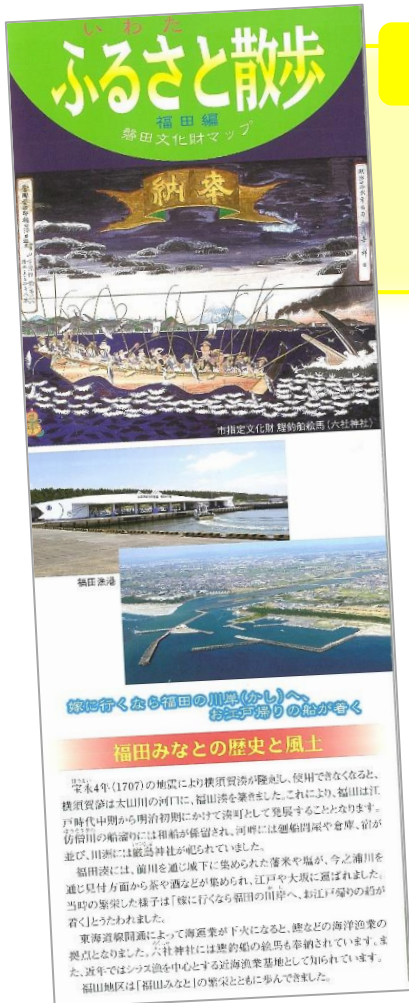
※休館日：6日（木）、10日（月）、17日（月）、24日（月）

会場：旧赤松家記念館展示室（入館無料）

磐田市見付 3884-10 TEL/FAX 0538-36-0340

旧赤松家記念館では、赤松則良の縁の品々や市指定文化財のやりめいかねなお 檜 銘包直などを展示しています。この機会にぜひ！





文化財課刊行物紹介

いわた ふるさと散歩 福田編

このたび、『いわた ふるさと散歩』の福田編をリニューアルしました。『ふるさと散歩』は、地域の歴史や文化財などを写真を交えわかりやすく紹介しているパンフレットです。ぜひ、ご覧ください。(無料)

配架場所

- ・磐田市埋蔵文化財センター (土曜・日曜・祝日休館)
磐田市見付 3678-1 8:30~17:15
- ・旧見付学校 (月曜休館) ※5月6日 (木) 休館
磐田市見付 2452 9:00~16:30
- ・旧赤松家記念館 (月曜休館)
磐田市見付 3884-10 9:00~16:30
- ※磐田市観光案内所 (磐田駅前)、磐田市情報館 (ららぽーと磐田内)、市政情報コーナー (磐田市役所本庁 2階) は順次配架します

マップデザインを大幅リニューアルしました

①福田地区を代表する文化財の説明と所在地を、線で結び、よりわかりやすくしました。

②市指定文化財の氏神様の年始回りや中野白山神社とおかさい十日祭(お箱)、県指定文化財の鰐口などに、写真の一部を変更・追加しました。
写真でも福田の文化財をお楽しみください。

福田の歴史と文化財



③道路や周辺施設の表示を追加しました。文化財を巡る際には、ぜひ参考にしてみてください。

ふるさと散歩シリーズは、福田のほか、豊岡・北部・見付・中泉・東部・南部・豊田・竜洋の全9種類あります。ぜひ、手に取って御覧ください。



©磐田市



遺跡の範囲内で工事をおこなう際には 届け出が必要です！

磐田市には 300 ヶ所を超える埋蔵文化財（遺跡）が存在しています。しかし、埋蔵文化財は地下に埋もれているため、知らずに工事をおこなうと破壊されたり失われてしまうことがあります。

遺跡の範囲内で掘削を伴う工事をおこなう際には、その規模に関係なく、計画の段階で文化財課にご相談ください。

土木工事などの目的で遺跡の範囲内で工事をおこなう場合、文化財保護法の定めにより、工事着手 60 日前までに届け出をすることが義務付けられています。

遺跡の範囲の確認は、文化財課窓口、FAX で受け付けています。市のホームページでは、遺跡が発見されていない地域（大字）一覧表を公開していますのでご利用ください。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



工事立会いの様子
(御殿・二之宮遺跡)

問合せ先 文化財課 TEL:0538-32-9699 / FAX:0538-32-9764



職員リレー コラム

漆喰（しっくい）の話

安藤 寛

遠江国分寺跡の発掘調査で壁土が出土し、その表面の白色部分の成分を分析した結果、御前崎市付近に約 300 万年前に堆積した火山灰が使われていたことがわかり、数年前に大きなニュースとなりました。最近、その壁を白く塗る材料について調べる機会がありました。

お寺の建物の壁を白く塗る、というと漆喰を思い浮かべますが、奈良時代に漆喰を使ったのは興福寺や法華寺などの都のごく一部のお寺で、建物によっては白土（白色の土）も使ったことが史料からわかります。

漆喰は石灰岩や貝殻などを粉砕して焼き、水を加えてできた消石灰（水酸化カルシウム）に麻などのスサと糊を混ぜて水練りしたものです。製造に手間と費用がかかることから、奈良時代の多くの寺は白土や火山灰を用いたようです。

漆喰は白土などと比べてその優美な白さだけでなく、耐久性や防弾・防火・調湿性に優れた材料として、近世の城や土蔵で広く使われるようになります。市内では、明治時代に建てられた旧赤松家や旧見付学校などに見られます。

最近は漆喰を使う住宅も増えていると聞きます。漆喰は、壁に塗ったあと二酸化炭素を吸収して石灰岩と同じ炭酸カルシウムに戻るといわれます。温室効果ガスの増加で地球温暖化が進む中、漆喰はその救世主になるかもしれません。



赤レンガに漆喰がはえる旧赤松家の蔵

編 撮影スポットとしても人気の旧赤松家記念
集 館。県指定文化財の赤レンガの門は勿論、
後 お庭もおすすめてです。展示品の見学後には
記 是非敷地内もゆっくり御遊覧ください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより 検索

